

現状認識

島田市を取り巻く状況（時代の潮流）	島田市の人口推計、概況	アンケート、ワークショップによる市民意向の確認
①人口減少・少子超高齢社会の進行 ②教育や子育てに対する関心の高まり ③インバウンド需要の回復 ④社会経済情勢の変化 ⑤防災意識の高まり ⑥社会資本の老朽化 ⑦地域コミュニティの維持と共生社会の実現 ⑧環境問題への対応 ⑨デジタル化の進展、デジタルテクノロジーとの共生	・人口推計 R15：85,871人（社人研推計） ・人口推移 R3：96,769人 →R6：94,747人↓ ・人口動態 自然増減は減少、社会増減は増加 ・園児数 R2：2,635人 →R5：2,475人↓ ・就業者数 H27：51,219人 →R2：49,883人↓ ・農家数 H27：1,748戸 →R2：1,356戸↓ ・観光客数 R3：1,747千人 →R5：2,366千人↑ ・ごみ収集量 R2：22,702t →R5：20,421t↑	【ニーズ】 ・若い人ほど住みやすいと感じる一方で市外居住を望む傾向がある。 ・中心市街地の活性化が望まれている。 ・子育て・教育、地域経済、安全・生活環境、公共交通に係る取組が望まれている。 【市民の意識】 ・交通の不便さや町のにぎわいのなさに住みにくさを感じている。 ・「人とのつながり」が重視される傾向がある。 ・イベントや祭り等の伝統文化が魅力と感じられている

現状を踏まえた課題認識	①防災 災害の頻発・激甚化、情報の効率性・効果的発信 ③地域・生活 市民の主体的なまちづくり、価値観の多様化 ⑤観光・交流・歴史・文化 観光消費の拡大、地域の魅力の発信 ⑦都市基盤 人口密度の維持、インフラの老朽化進行 ⑨行財政 財政の硬直化、デジタル技術の活用、ムリ・ムラ・ムダのない公共施設マネジメントの推進	②福祉・健康・医療 支援を要する人の課題の複雑化・複合化、地域共生社会の実現 ④子育て・教育 家庭環境に困難を抱える子供の増加、学びの場や機会の確保 ⑥経済・産業 労働力不足、空き家・空き店舗のリノベーション、農林業分野における担い手不足、お茶の生産量・販売額の減少 ⑧環境・自然 ゼロカーボンシティの実現、荒廃森林や荒廃農地の増加
-------------	---	---

めざすまちづくり（基本構想） 令和8年度～令和15年度

基本理念	ここにしかない「個性」を大切に	どこよりも「元気」に	ともに支え合い「協働」して
将来像	笑顔あふれる 安心のまち 島田		

将来像を実現するための指針（3大戦略）
循環型社会 縮充 DX

将来像の実現に向けて（前期基本計画） 令和8年度～令和11年度

前期基本計画における「分野横断的な考え方」	政策群1 安全・安心に暮らす	政策群2 未来を創る	政策群3 次世代につなぐ
・国は「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けた取組を推進している中、誰もが安心して快適に暮らせる社会を作るために、デジタル技術を活用する必要がある。 ・国内外で環境への関心が高まる中、カーボンニュートラルの実現、市内の経済成長、雇用・所得の拡大に寄与するGXの取組が必要。 ・「持続可能な街づくり」を策定テーマとして掲げる中で、SDGsに貢献することは重要である。2030年のSDG終了後の目標の一つとして「Well-being」が検討されている。 ・国が「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、「Well-being指標」を導入していることに加えて、次期静岡岡県総合計画においては、「ウェルビーイングの視点」取り入れることとされている。	1 防災 【全ての地域で安全に暮らせるまちづくり】 ・あらゆる災害に備える（防災・減災） ・不測の事態に柔軟に対応する（危機対策） ・日々の暮らしを守る（消防） 2 健康・医療・福祉 【誰もがいつまでも健康で元気に暮らせるまちづくり】 ・健康で自分らしく暮らす（健康） ・適切な医療提供体制を維持する（医療） ・生きがいを持って安心して暮らす（高齢者福祉・介護） ・認め合い地域全体で支え合う（地域福祉・障害福祉） 3 地域・生活 【市民や事業者などと協働し、誰もが住み続けたいと思えるまちづくり】 ・誰もがまちづくりに関わり、魅力ある地域をつくる（市民協働、中山間地域振興） ・住み続けたいと思える生活環境をつくる（住宅、公共交通、交通安全、防犯、消費生活） ・互いに尊重し、様々な違いを認め合う（人権、男女共同参画、多文化共生） 柱ごとにめざそう値と成果指標を設定する。 めざそう値：主観的な市民満足度・重要度 成果指標：目標に向かっていくかを計る指標	4 子育て・教育 【子育て・教育環境が充実するまちづくり】 ・子どもを生み育てたくなる環境をつくる（結婚、出産、育児） ・地域全体で子どもを育む（学校支援・子ども支援） ・将来にわたって活躍できる子どもを育てる（義務教育） ・地域で自分らしく活躍できる人を育てる（社会教育） ・生涯を通じてスポーツを楽しめる環境をつくる（スポーツ） 5 観光・交流・歴史・文化 【地域の魅力を活かして人が集うまちづくり】 ・地域の魅力を活かした観光振興を図る（観光） ・島田の魅力を発信し、地域の活性化につなげる（シティプロモーション） ・誰もが暮らしたい、関わりたいと思う活気ある地域をつくる（移住・交流） ・育まれた歴史・文化で、地域愛の醸成を図るとともに学びの場を提供する（歴史・文化） 6 経済・産業 【地域経済を力強くリードするまちづくり】 ・地域で活躍する人を増やし、地域経済を発展させる（人材確保） ・未来を見据えた経営に取り組む中小企業を育てる（中小企業支援） ・商店街や個店を支援し、地域のにぎわいを生み出す（にぎわい創出）	7 都市基盤 【ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり】 ・便利で魅力あるまちをつくる（都市計画） ・安全で快適な生活基盤を整える（生活道路・河川・公園・上下水道） ・地域と地域の活発な交流を支える道をつくる（幹線道路） 8 環境・自然 【豊かな自然環境を維持し、ともに生きるまちづくり】 ・脱炭素社会に挑戦する（脱炭素社会・循環型社会） ・農地や森林を守り、みどり豊かな自然を育む（森林環境・農地保全、緑化活動） ・生活や経済活動等に欠かせない水資源と水環境を守る（水資源） 9 行財政 【経営改革を進め、人口減少社会に挑戦するまちづくり】 ・安定的・継続的な市民目線の行財政運営を進める（行財政改革、人材育成、情報公開、広域連携） ・デジタル技術の活用により市民の利便性を向上し、行政を効率化する（デジタル） ・公共施設の適切かつ効果的な利活用を進める（公共施設の保全・再編・利活用）
	国土利用計画島田市計画		
	まちづくりの「テーマ」（第2次総合計画後期基本計画）		
地域別まちづくりの方向性	・川根「雄大な自然を背景に、多彩な交流と活力を生み出す地域」 ・金谷「茶文化を守り伝え、多彩な交流と新たな活力を生み出す地域」 ・六合「緑がうるおう、多様な世代が交流する暮らしやすい地域」 ・伊久身・大長「水と緑の自然に育まれたふれあい豊かな暮らしやすい地域」 ・旧市内・大津「大井川の恵みと交通の利便性を活かした、人々が出会い歩きたくなる地域」 ・初倉「緑と歴史が調和した、活発な交流を生み出す地域」		

「地方創生重点プロジェクト」

人口減少問題に対応し課題を克服しながら、住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある島田市を維持していくため、「島田市デジタル田園都市構想総合戦略」の基本目標を前期基本計画の中に位置づける。

